



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

新局玉石童子訓卷之二十二

東都 曲亭 主人口授編次

第五十回

大江峯張逐そ松煙齋ふ説く
文武和合して故人故人を知る

復説韓錦搊二郎ハ大江峯張兩主僕の道理と畫是非と論す。
言ふ諫うてか。やどりて无明の醉醒て慚愧後悔大なるも聴果貌を
改めて両主僕ふ謝してゆき。在下性愚魯も必然の理矣。暗くよき
匹夫の勇を負て彼旅客ハ孝女。廉士を思ひもかけ。飽きで虐げ苦
あり。今さら脛と噬み。千たび悔じも及びがとう。然るを刀祢。们幸ひよき
博愛の誠意と。金言玉語と惜みぬぞ。鍼砭狼切をさへ。とのたうちまへ
我舊癖を立地ふ刈除れて。昨非と知るふ至んや。天も明バ田文あひて彼父

うち勸解。俱一から来て家を出でん願ひ。二君子詞を添て。樹よく寛解
なり。とゞ八重作も額と衝て。愚意も家兄が異うべし。始後悔仕りぬ。我
们弟兄武をのぞ好そ。学の窓を疎ければ。見ぬ世の聖と師と。治は理非曲
直ふ惑ふの故。兄の弟と誠ゆ。弟の兄と諫る。俱ふ勿忘と累ね。と
悟らう。と面みけ。いふ。恩免あまか。と笑へ。陪話で已まう。と成勝
徐ふ推禁め。賢兄弟先非と悔て。今より善ふ與へ。歎び是ふ優ゆ
す。古の人いふとあり。三人醉ゑ溺る時。敢是と拯ふ者。其内中
一人醉ゑ溺る者と似。うとらんの無禮うべ。とゞ道能も共侶。後の
殿兄弟弟子達も。其のひの道理ふ差ふを曉り。と諫る者。うりへ三
人醉ゑ溺る者と似。うとらんの無禮うべ。とゞ道能も共侶。後の
短慮と警言て。和談の歡びを演る程。ふ夏の夜蚤く明初て。牕の隙より
人共侶お坐て。まつ縱二郎もあらむ向ひて。昨夕の刀祢们的諫言と。蔭を
知り。深く感心仕りぬ。伙計の毎やも傍へ。皆大人をうり仰らん。既ふ浴
桶ふ水汲入れて。早く焼つけ。うれが程よ。拂ひ。客人達も湯浴。と且早
飯と果と。後ふ優ふ睡らせぬか。と余主僕の膝を找へ。言町寧ふ勞ふ
程ふ押繪。薦る淨きの湯桶ふ。養歯と塗をそり添へ。盆の残の月を。と
影さ見る花漆の花あり。実あり。款待。成勝と通能の歓びと演じ謝へ。
軒廊ふ牛か。縱二郎の押繪ふ向ひて。汝も疲労て睡る。けど先早
飯をとだねが。既ふ知る。情由れべ。今朝も。咱も。刀祢们を請ひ立合取事

朗々軒端近く鳴且る鶴の聲。ゆえか。縱二郎驚見たり。短夜と
どき。美談佳境ふ。入る隨ふ。客人達ふ。睡ぬ甚。鉢や一宵と過へたり。
とひ間ふ八重作へ。遽く身と起して。其頭の板戸を推開れ。時ハと奈我四
郎。共侶お坐て。まつ縱二郎もあらむ向ひて。昨夕の刀祢们的諫言と。蔭を
知り。深く感心仕りぬ。伙計の毎やも傍へ。皆大人をうり仰らん。既ふ浴
桶ふ水汲入れて。早く焼つけ。うれが程よ。拂ひ。客人達も湯浴。と且早
飯と果と。後ふ優ふ睡らせぬか。と余主僕の膝を找へ。言町寧ふ勞ふ
程ふ押繪。薦る淨きの湯桶ふ。養歯と塗をそり添へ。盆の残の月を。と
影さ見る花漆の花あり。実あり。款待。成勝と通能の歓びと演じ謝へ。
軒廊ふ牛か。縱二郎の押繪ふ向ひて。汝も疲労て睡る。けど先早
飯をとだねが。既ふ知る。情由れべ。今朝も。咱も。刀祢们を請ひ立合取事

まく欲も早飯の外ふ晝餉の割盒を。五七口品準備せよ。時八と奈我四郎。通宵也。恥からん者。煮炙の事ハ四鄰うち家家連を傭モ。自他はせよ。とひふ押繪ハあり。心とあら退けべ。時八も是とうち坐て否と。人を傭ム。要す。孰モねむ。睡り一者うち。我們西園のとすんや。火を焼くべ水を汲てん。奈我四郎。とひそまうと。樅二郎推禁示。鶴脛史所用あり。早飯と果一束。汝が蚤く人馬會所。田文まで往還また旅轎二挺と逃て。已の比及ふをせとひね彼父女と乗ん。田文まで往還また旅轎二挺と逃て。已の比及ふをせとひね彼父女と乗ん。為へ。急ぐとも。とひも。とひ儘奥へ退けべ。是より先ふ八重作へ退そ漱だる。大江主僕ふ茶を薦め。其後早飯を薦ふ。押繪と俱ふ給侍一果て。更ふ浴室へ案内をす。是より後も其度毎ふ。王客の讐遜辭讓の禮。即速の口誼さをあらんを。言省て備ふせ。看官宜く猜。左。右。考。程。己の時近くみ。す。か。樅二郎。身装ふ。單。奥より出で。多て成勝通能ふ。談す。在下田奈

ゆひて彼旅客父女を迎え。欲もあれども和君も先ま。橋を亘り。他ものあら解がれん。昨宵よの疲労あらんと。請ふ。無心不似され。峯張主那里裏。共宿ふやれぬ。とひと成勝もうち坐て。夏の夜睡眠を食ふ。各無事の時あるべ。非如一夕睡。人我意見と信容て良善の域ふ。赴ひ。宿ふ。我のミ居り。俟。あらんや。峯張然も思ひ。然とひ不通能然べ。と心て。誰とぞ留る者。す。ま。樅二郎ハ強難て。且感。且謝。八重作と喚て。矣。刀祿門も。咱等が。為ふ。田文。也。んと。宣ひ。されば。汝も伴ふ。立。就て。亦所用あり。耳をひき。と引よ。等。唄ひ果て。亦。ひ。う。其東西又。疎く。整ひ。汝搭駄。か。那里へ。追着。着け。疾せよ。か。と。吩咐。れ。八重作。ひ。う。る。果て。退り。衣を脱。更て。背門。よ。り。坐。お。け。う。是。日。ひ。く。昇。り。そ。已の。時。鐘。鎬。そ。と。安。る。程。ふ。這。驛。の。人。馬。會。所。よ。う。四。固。の。轎。夫。二。挺。の。旅。轎。を。昇。り。そ。あ。呼。門。り。當。下。樅。二。郎。ハ。坐。轎。夫。を。勞。す。去。向。を。

あらぬまう程ふ時八と奈我四郎ハ準備の盒子と両祫を裏へとて出く。
搭駄を伴ふ立ち至。樅二郎是を見て時八もと喰ひてゆき。既に樅の便轎
ある。汝も伴ふ立たる。宿所へ退りて疲勞を醫一ね我身みづから那里へ。
田文の父女は後悔の誠意を示さん。面正もろえ吉又さふ伴當連々何不
せん盒子へ便轎を載てゆて。口承くと制られ。時八と奈我四郎は只得其意を隨意。
二裏きり件の盒子と空轎不分ち容れ。且成勝通能の為ふと。今朝準備奉
る草履二雙を出して脱氷石の上へ直一楷程ふ押繪も奥より出で来。大
江主僕と旁へ樅二郎は亦押繪ふ留守のあらむ。屢々熟睡を誠也。
卒と在らふ身と起せば成勝と通能は押繪時八と奈我四郎もふ疲勞を慰め
且謝して。樅二郎と共に轎夫毎と相従て庭門より坐てゆく程ふ奈我四郎
時八も門前を送りて別れて各宿所へ退り。是日留守の押繪の外。今朝

早天より傭れる比鄰の家家も在るまへ。余程ふ韓錦樅二郎は成勝通
能と共侶ふやくと約莫十餘町立合坂の洞へ来て。那父女何地で此處一宿
似き在ることなれば。大江主僕も訝りて思難を开か前面を。茶店へ歸て立つて。
通能が先媪に向ひて云ふと問試る。お嬢へ笑ひ答てゆく。原来お嬢は二柱。昨日
彼瞽父女ふ東西多く令せむ。旅客達をあわせよ。韓錦王もゆく尋ね
彼瞽者。這刀禄們の東心せぬ。仙丹と飲ひ妙藥の即效もやあらん。一夜の
間不被撲傷のゆき。皆愈一のゆき。打済されとお両眼。撲れぎり始より。
其明亮きと鏡の像く癱る脚き疼痛を覺え。都て瘡り果けり。今朝目
覚め。後親も少女も知りぬて。敬萬奇感嘆ある。その悦びゆくもゆく。昨日方
の禄達の立去りゆ。其方と口顧伏辞を。父女の姑且商量あり。媪が茶店へ
出で來。別を告て云ふと件の喜の趣を説示され。す折ふとうぢや渾不似ま

のち。これらもやこもおれま
先て是亦賣せ。あの樂器。今うちの後逆路。ふ需要す。萬ふひとと咱等父女も憐
まひと。ゆく。がくキ。さう思ひ入あくて去方を問う。祈もあるあらが。是と照据ふ彼恩徳と。説知らせぬか。
然るをとろく。中身の隨意賣て錢ふ換るとも。沽れま。權を茶を烹るとも。左も
右も做りゆ。恨らぐ。彼刀祢達ふ。是ものよと告め。報恩謝義の一語だも。
演じざるを本意きらね。然らば。とぞうひ捨て。うち連立て杖をふ。斂れてりそく。妾
アラ。さぞ久々。あはげ。己の時過だ。時候。りたと告る。呆る。榎二郎。い
まぎ。合る所を知ら。當下。成勝通能。婆果。俱ふ。ゆ。原来。昨日。施。神
やく。そ。ゆ。かの。ひ。ふ。ち。き。ま。ひ。く。ち。む。も。そ。う。ぢ。ふ。甚え
藥即效。愆な。彼旅客の不治の瘡。一夜の間。ふ。瘡果。し。孝女と慈父の正心
誠意を。憐。も。神明佛院。眞助。かこそあり。うち。缺。が。見。ゆ。み。和談既
整ひて。俱ふ尋せて來。か。も。昨。日の儘。も。逢。ま。ゆ。彼。人の為。不諂。す。千
萬言も。皆空。といひ。俱ふ。傷。る。登。見。ふ。尻。も。うち。樹。れ。根。一郎。も。その前。面。る。

登兒あがめふ倚よりて却さしひふや。ゆくが如おなれ和君達の仙丹神妙未曾有へ縦被旅客の眼
明ふ脚疾ききるとも。這地方と立去立ち去り一已の時過すぎたてのゆゑゆゑば。といひて日影と瞻
仰あがて。まき一時ひとときふ過すぎたきらふ必ひつ遠とほくゆくべく。卒そつ々追お鬼きてえと懦のると成勝推
禁きんめて。そち易論やうるんのゆきうち和殿わでんの一身肥滿ひだらて。技と力ふ勝かつれても反かて路じとゆふ遲おそ
て。權ごん且よ這里ぢりふ俟まむ。我們われわれ、主僕路しゆくじゆの程きゆ。二重にじゆ追おて乃逢お逢ざま。开里かいりよしかり來きづ
とも。益ますある。便びん轎こをも送お一置いく。そよけれどゆく。這茶店ぢぢゃん賣うは。草鞋くわ二
雙ふたを買うとりて。まく其緒おのとを繕ちつぬ。あらがくひと
穿ぬく折りち。奈良櫻八重作ならざくら。被裏ひしと替かふ。件くだんの草鞋くわ
早く見み出だして。八重作やへき。障さへ見る。ありて。秋あきと向むかふ。面おもてふ八重作やへき。
余店よてんふ辿たどり着つくて。樅二郎ひばりふ報しらべる。吩咐むぶつゆふ。故ゆゑ。尚已とうひの時ときたうの物ものあり

あを三四箇帶え買ひ合ひてある路まで摸瘡發そ最堪がを辛くして來る
 お遅くうちたまどりか。王侯お會釋して発児の端ふ尻と掛け、樅二郎へ嗟嘆して
 成勝もふ對ひてゆす。在下今日彼旅客父女を迎へ宿所へ相伴よ。他ちが衣の
 敗れ垢づて櫻形裾からんをそ。儘ふ俱へひえひまを。準備せよと思ひのうら
 咱ち弟兄女弟さへ身材大にやうえが。お衣とて他ち父女を貸して被せ。世話ふ
 り。猫兒を袋ふ裝れ。像く。彼身ふ稱ふ。もあらね。今朝八重作ふあらぬを。
 故衣店吏く衣三四箇と賣せて。自今と來あけれど。亦十日菊ふ似て空ふきゆ。
 鈍きよと。卿言がくくうち。挖み成勝も通能も云々と慰めて和殿他ち父女の
 為必然までふうろと用ひらま。我們さくふ歎がも。今無益不似れども。そも亦
 後ふ用あり。欽る。欽へまざ。知るべく。就て八重作哥々の臓疾。摸瘡の。欽心
 許き。心地甚麼と詰れば。八重作の袂裏解下し。答る事。最恥じだ。

ら。昨宵部領川の上す。峯張主の一棒を受損絶け。摸瘡ふゆ。今朝まだ然
 あふ。疼痛と覺がく。方僅來ゆ。中途より漸くふ腫充て。堪がくと。ひ氣を告
 き。通能散驚。亦不慮の。然とも彼仙丹。今も尚我腰。在り。用ひ
 る。必即效。先そ。棒瘡と見せる。と。余八重作面と。皺めて。衣領甘はく
 右の肩と。祖たて示す。見ゆ。現腫充て。跡の像く。色紫の灰。後れ。ふ似
 て。疼痛と想像。成勝へ眉を顰。翠や。昨ハ不慮の。両敵た。今ハ同立
 友人。うふ残る。瘡と。是是非。それ。と。今。樅二郎も。驚。憂ひて。是ふ就て。でも峯
 張主の。槍棒修練の至妙と。知る。八重作。が。為。好修行。ふと。ぞひき。と。う
 ま。ふ通能。彼仙丹を。う。八重作の。棒瘡。隈も。く。塗り。そ。鼻紙。どり。く
 益ふ。あ。枝。そ。祖と。斂。さ。そ。誘。と。うち。成勝。と。そ。立。歩。多く。まれ。樅二郎
 も。立。か。咱ち。弟兄も。共。宿。ふ。必。四。対。該。され。も。り。如。我。歩。疾。う。も。八。重

作ひ恙あると了得ふ見捨ざれば本意ゑくことをいれ。といふ間に成勝通能の
心も果を歩ふ信して。めぐら方と心當ふ。彼父女を追ふ。かく。樅二郎是首
送果て。轎夫等ぶ向ひて。すう。汝も知る情由まふ。茲モ俟へ。轎一を。亭
午ふ程もある。先の盒子と食ふ。宜く腹と繕ひ。彼刀禄们を追ふ。也
た。若彼父女は。逢ひ。刀禄達両箇どうり乗て。から来る。と。あけ。うるあらば。
ろぬてよ。と説諭せ。轎夫毎の異議。及。便轎より盒子を。と。西箇と。樅二
郎等の身邊へ。閣に四箇。各うち。用にて。温ふ茶と。そひ。者と。そ。早く。も。た。く。人
竭。残る盒子と。共。宿ふ。故の如。不。被。裏。と。便轎。ふ。斂。れ。樅二郎を。八重
作。の。り。來。秋。裏。と。用。見。て。包。て。轎夫等。示。す。此。は。是。彼。旅。客。父。女。を。被
せ。ちく。思。ふ。衣。物。を。帶。も。有。汗。衫。も。有。是。ど。も。便轎。納。て。ゆ。た。ね。余。の。タ。へ。如。此
如。此。を。う。そ。去。向。と。叮。寧。ふ。指。示。せ。轎夫。毎。の。あ。ろ。る。と。駆。て。二。挺。の。空。轎。と。拾。起

あ。大江主僕の。去。向。と。投。て。そ。り。を。だ。け。る。姑。且。と。樅二郎。の。茶。店。の。媼。を。向。ひ。く。
お。お。彼。旅。客。父。女。が。置。土。産。お。と。そ。汝。お。食。さ。せ。ー。お。渾。不。似。と。欲。お。樂。器。を。這
頭。お。置。ん。ハ。妙。き。我。お。賣。ま。や。買。ま。く。欲。き。汝。冬。か。か。そ。我。宿。所。へ。と。あ。よ。か。
よ。少。れ。知。ら。孫。と。そ。價。を。ど。り。く。懷。と。搔。拂。て。食。ま。生。一。方。金。と。卒。と。そ。遞。與。せ。
茶。店。の。媼。の。果。れ。惑。き。左。右。く。受。ま。満。面。笑。ま。斑。お。脱。る。板。齒。の。涯。顎。と。
高。嗤。ー。て。且。ひ。き。と。そ。辯。お。と。樅。二。郎。推。返。て。开。ち。の。る。と。る。ぐ。今。日。の。終。日。の。
店。と。借。て。所。要。と。辨。され。が。お。茶。錢。と。も。兼。な。く。も。と。出。ね。と。旅。寄。く。件。の。
方。金。と。食。ま。れ。が。媼。ハ。困。じ。て。辯。ふ。不。よ。う。く。幾。回。と。う。戴。を。腰。不。善。た。る。
匪。囊。の。口。と。開。ひ。楚。と。斂。せ。更。ふ。茶。と。煮。て。薦。る。程。ふ。八。重。作。ひ。の。と。海。



身も凭柱^{のりぢゆう}ふ身と倚て打盹^{あねむり}在りけふ。豁然^{さあ}とあて覺たる像く腕と捺り
身と起しと。樅二郎^{ひのきおやう}ふ向ひて坐す。家兄最奇^{めい}うりうり。我身の撲瘡^{うぶう}早^{はや}に愈て
浮腫^{うきよ}のあらえ疼痛^{つう}と覺え正^{まこと}是彼仙丹^の即效^{うそ}るを疑ひ。とらふ樅二郎
鉗^{くわ}び。初我彼旅客^の目まへ脚^{あし}え破られ。其大疵^{うき}の一夜^の間^ま彼仙丹^の即效
ゆ。瘡^{うき}果^とと^な一奇談^{きだん}。疑ふとあらぬ事^{こと}も。もうぬが^と思ひ。ふ今^の奇效^{うそ}
是目前現未^{あら}曾有^{ある}の神藥^{くわ}うかる。汝善^{めい}もあらまゐりある。弟兄^{あいだ}は这里^で彼人
人と居^ゐ候ん^{ひま}無禮^{ふれい}。御向^{むか}不^ふ彼刀祿^の们^の我脚^{あし}の速^{はや}からねどと。故意^ご
里^こ不^ふ送^{はな}され。脚^{あし}の遲速^{おそ}ふ由^ゆるやあらト。まことに彼父女^{おやじめ}と寳解^{ほうかい}を。我身^の俱^{とも}
追^おせよ。愁^う小事^の障^{さへ}りふ。うつむやせんと豫^よも思慮^{おも}れ。そもあらむまん。然れども
汝^の格^{くわ}別^べへ畫餉^{かず}と喫^くて疾邁^{きはい}。とくふ八重作^{やまと}有理^{あり}と應^{こな}て傷^{いた}ふ。あらけふ一
箇^{ひと}の盒子^ごと引^ひきうち開^{ひら}ひて。心^{こころ}と共^{とも}長^{なが}くぬ。若者^{わか}者^{もの}會^あひ抗^{たが}て喫程^{くわ}。程^{くわ}ふ媼^{めい}が汲^く

ゆそ薦めゆる。熟茶^{あくぢや}の茶碗^{ちわん}會^あひ外^{ほか}と指^{さし}と焦^こり。噫熟^{あくあく}やとまと振り口^{くち}ふ^ふ哺^く
せそ。汲^く更^{また}ま^る湯^ゆふ水^{みず}と。ゆ^ゆて往方^{むか}定めぬど。人^{ひと}を追^おふ身^みの膽向^{むか}ふ心頬^こ
ひがれ。鄙語^{ひき}ふう^六藝^う外^{ほか}不^ふ早^{はや}喰^く早^{はや}走^{はし}り。物^{もの}皆^{みな}囫^{ぐに}吞^のふ盡^{つく}た。盒子^ごと其^こ
首^{くび}不^ふ措^あま^る。遍^{まん}一^一通^き。遂^{つい}に來^くて。とくよう早くゆ^く連りふ走^{はし}げ。是^{そこ}の後^{うしろ}樅二郎^{ひのきおやう}、
詞敵^{ことあわせ}ふ做^すそ^うも危^き媼^{めい}と對^{たい}ひて坐^する程^{ほど}ふ去向^{むかひ}の首尾^{くび}甚^{多く}麼^うそ。彼刀祿^の们^の
折^{おり}もよ。追^お着^きたる旅^{たび}と立^たて見^み居^ゐて見^み物^{もの}思^{おも}ふ心^{こころ}不得^{めで}ふ。昨^{さう}夕^{ゆふ}。疲^{つか}勞^う
氣^きふあらざれ。外^の見る目^めも甚^{多く}あ。磯浦^{いそうら}偽^{いつ}ひ漕^こ船^{ふね}の楫^{くわい}あらぬ。肱枕^{うぶくわい}横臥^{よこし}
まう寝^ね。有右^う一^一程^きふ日^ひ敵^{あわせ}て未^み牌^{ばい}の中^{なか}院^{いん}過^くる時候^{とき}外^{ほか}より來^くる者^{もの}あり。
樅二郎^{ひのきおやう}ハ其^{その}從^{とも}時^{とき}ふ愕然^{おどろ}と驚^{おどろ}覺^{くわく}。と見^みれべ來^くる別^べ人^{ひと}を峰^{みね}張^{はり}通^{とお}能^うく
けれども賢君子^{けんじよ}早^{はや}餘人^のひふ來^くまき抜^{ぬき}と問^{たず}ひ。聴^きて發^は児^こと讓^ゆりそ。

茶店の媼と促し。煎茶と薦め。勞へ通能。含笑。聲を低めて答
る。韓錦主歎び。去向の首尾。嚮小の茶店と歩一歩。我們主
僕足不信。彼父女と逐ふ程。約莫一里有餘。字を蔬禽と喚做
た。村落小飯店。件の父女。其店舗にて。晝餉と喫て。已既早く
見出。あ欽び。もあら。主共侶。找入て。名告。まれ。彼父女。若者を
禁め得と見て。恍惑して。登見よ。像く地上伏て。三拜四拜も尚足。
幾回とく額と衝て。感謝堪ぎ。且ゆ。兩恩人。上在を小人過世福あらず。
曩裏。禍鬼身。夤縁り。這兩眼と打渢。それの向脇と折角。目无
猶の磯。漂泊ひ。脚免鮮卑澤邊。不惱る。進退既ふ谷り。父女袖乞ふ。
台。餓渴不迫。わざ。菩薩。弥增。兩君子の過。を。あふ邂逅。
世ふ未曾有の仙丹と。多く施。ゆう。即效神速失。是。亦せ兩眼

隻脚。故の如く。瘡果て。自由と。ゆけ。昨日賜。一金。されば。並く
那首と立。立。餘毒と避。思。累。の。兩君子の。洪恩德。爰を仰げ。須弥も猶
低く。伏て思。四海も。猶淺。免歎び。亦。稟。を。乞う。那儘。と。其後の
安否。も。沿。問。を。免。ゆ。あ。苦。思。ひ。の。投。往方。定。然。ど。も。今日も
女児と。技。被。方。統。這。里。ま。來。ふ。ける。料。う。き。ける。兩君子も。亦。這。路。と。過
らせ。女。被。か。る。充。再。會。に。要。秋。現。秋。夢。う。づ。覺。ま。あれ。と。諄。復。親。ゆ
き。少女子も。感。淚。袖。と。絞。る。ま。不。受。恩。惠。と。云。不。と。罄。以。詞。の。露。る。清
心。を。知。れ。る。我。們。主。僕。瘡。果。て。且。慰。や。答。る。や。已。も。兩。箇。益。を。來。寄。汝
父。女。を。追。ん。と。そ。叟。の。瘡。瘡。の。早。ふ。愈。て。今。朝。父。女。共。侶。が。那。里。と。立。ま。り。ゆ
く。茶。店。の。媼。ゆ。知。り。そ。遺。一。置。れ。渾。不。似。え。見。る。余。波。の。惜。れ。い。ま
面。談。せ。ま。欲。く。思。不。ト。さ。あ。り。の。と。空。史。セ。ト。と。那。里。を。ゆ。る。去。向。を。心。當。ふ

跡を慕ひて來る。と告る。款が件の父女へ亦只感謝の外。且敬ひ且畏
え。左右より身を起さり。と我們主僕屢々請を。先其畫餉と栗さし。却
共侶ふ片隅。登兒不従。額と交て密談數刻。及び。その要略の條々。
之でもある。昨宵部領河原の顛末と首坐。和殿弟兄先非と悔て。我們主
僕と媒人坐り。件の旅の父女と和睦の酒盃を饗され。白豬の宿所を迎
執て。枝助ふるうと抗言ひた。誠心誠意の崖客と。主僕迭代ふ。傳示して。只管和
睦と薦め。父女ハ耳と敵せ。空果て謝して。世事人を捨れて。袖を不
までもりたる。我們父女と人まく思食なれ。と。昨宵も夜通。今日も亦三重の路
遠とせ。玉趾と柱をぬけ。親も殊増大慈善好が上。も好れと。教諭を
ゆふ。何よ推辯。あらば死ゆか如た。彼韓錦が一語の下。昨非と知り。恩怨
釐く地を易す。亦両君の徳不曲矣。人既ふ本然の善。復り和睦を詣。猶

疑あゆむ。鄙語。ありの。美美ふ懲て。旅歎と吹く。如けん。左。右。君等
の隨意。宜く。憑き。と。言語。雄々。答る。どうから。和殿の。を。ゆ。彼。轎
夫。ち。が。空。轎。と。昇。く。件。の。店頭。と。過る。と。腋子。成勝。の。見。牛。て。一聲。や。と。喰。被
れ。轎夫。毎。散駕。見。入り。飲。び。原。来。茲。在。ま。下。幸。あ。幸。あ。と。い
き。も。一箇。の。轎夫。找。入。り。我們。主僕。不。告。る。す。旅客。達。と。迎。へ。よ。と。韓錦。素
吟。咐。られ。刀。祢。們。の。御。跡。と。慕。ひ。て。い。そ。が。あ。る。と。就。て。刀。祢。們。の。畫。餉。の。盒。子。も。又。客
人。不。あ。せ。よ。と。あ。衣物。も。袱。ふ。包。そ。便。轎。の。裡。不。あ。先。由。腹。と。繕。ひ。出。せ
え。と。説。訖。れ。其。餘。云。固。の。轎。夫。へ。額。と。胸。不。流。汗。と。拭。ひ。も。あ。ぎ。便。轎。の。戸。を
開。き。と。盒。子。と。袱。裏。を。食。か。咱。ち。不。渡。を。ゆ。大。江。腋。子。も。云。ふ。と。轎。夫。を
勞。き。先。彼。等。も。登。兒。と。分。そ。酒。飲。せ。ど。も。却。件。の。父。女。を。向。ひ。と。和。殿。の。心。と。用。ひ
られ。事。の。趣。云。ふ。と。告。て。あ。衣。と。被。ま。く。便。轎。不。乗。を。薦。め。ふ。件。の。父。女。も

徒。父。親。且。答。矣。我。們。孤。獨。之。旅。客。兩。君。子。之。德。義。不。よ。ろ。く。恥。と。雪。る。の。
き。モ。昨。の。寃。家。今。の。知。己。不。る。り。そ。の。世。不。稀。幸。い。や。い。不。彼。人。贈。か。れ。を。
往。と。和。睦。の。禮。あ。も。及。び。あ。の。衣。と。被。て。そ。の。轎。子。乗。て。那。里。へ。ゆ。る。と。兩。君。子。
示。教。不。悖。る。無。礼。老。非。義。不。似。れ。ど。あ。の。義。だ。う。饒。き。せ。る。我。身。病。後。あ
れ。と。も。路。走。り。疲。労。覺。便。是。仙。丹。經。驗。不。そ。ひ。ひ。い。そ。く。と。ぞ。う。受。
引。く。べ。も。あ。ら。ま。け。る。か。ち。わ。ら。八。重。作。舍。弟。の。撰。瘡。早。愈。た。と。跡。慕。あ。
來。ふ。れ。れ。我。們。恥。呼。入。れ。和。睦。成。就。の。顛。末。云。云。告。示。不。舍。弟。歎。歡。
び。不。堪。先。仙。丹。奇。效。謝。て。茲。小。剣。彼。父。女。和。睦。莫。逆。口。誼。演。和。
殿。今。朝。ち。彼。茶。店。俟。と。告。知。旨。齋。一。た。彼。衣。件。父。女。被。せ。
き。ま。ま。彼。旅。客。猶。辭。下。子。路。勇。け。れ。ど。衣。散。れ。る。恥。せ。む。
只。不。義。富。欲。名。利。奴。做。う。心。恥。強。情。似。て。ひ。ぐ。口。お。隨。

あ。え。そ。胸。最。安。く。い。れ。と。の。腋。子。猶。諭。て。和。殿。心。清。か。夜。光。玉。
や。殊。や。され。も。亦。已。と。枉。て。人。意。見。不。従。ふ。温。良。君。子。と。そ。ひ。あ。既。不。和。
睦。整。ひ。と。彼。の。贈。物。受。ま。や。心。隔。あ。不。似。て。橋。渡。倒。ふ。
百。伏。そ。快。ら。所。あ。の。笑。思。ひ。あ。き。や。と。説。れ。亦。旅。客。黙。然。と。辭。生。
る。由。き。ひ。や。ふ。と。答。る。教。諭。寔。不。其。理。あ。然。な。其。衣。借。ま。り。父。
お。身。皮。縫。ふ。轎。子。笑。従。ひ。か。と。の。腋。子。も。已。穿。も。开。と。亦。強。ん。を。ま。す。
老。商。量。竟。不。整。ひ。と。我。們。主。僕。盒。子。開。て。物。欲。ろ。腹。縫。亦。旅。客。父。女。事。
薦。や。云。び。著。と。食。ま。せ。餘。き。盒。子。と。童。作。舍。弟。と。轎。夫。も。不。盡。さ。せ。俱。不。か。う。
志。ゆ。程。不。咱。笑。の。笑。逸。早。く。和。殿。不。告。も。知。ら。え。と。走。り。か。り。夢。彼。旅。客。思。
未。增。る。清。白。の。廉。士。其。姓。名。と。問。試。と。原。是。丸。石。の。人。氏。老。路。鷺。森。松。煙。齋。
號。ま。と。り。其。性。手。迹。好。み。が。長。古。歲。昔。弘。法。大。師。の。法。帖。と。學。と。年。歷。せ。

卷之三

余りうらういえ
聊筆意とゆうひの人の師かること好みを故ゆて十穂近く諸國と偏歷ま
る。隨ふ其書と需る人あれば其润筆とゆるて父と女児の盤纏ふ充る者へと。和殿の
姿と知りうる歎と向きて擬二郎ハ怡悦ふ堪ざ。含笑きく頭と肘て通能ふ謝と
ゆす。在下性愚モ。畢竟漫の罪ヨヌラアホ。倘両君子の扱引るをり彼人の怒早ふ
解て。今あの田地ふ至んや彼旅客の姓名ハ畢竟ふ知るあからぬども。嫵譚のタ水
炭合ねば果ハ送ふ怨と累ねて田文の食乞と罵。松煙齋と號するより忘
きて思ひもむぎり。実ふ恥乞と答る詞も訖ら辰わく見越松時八と鶴脣
奈我四郎ハ韓錦弟兄のかきの遅を俟不樂て心許ゆや思ひけん。迎の為ふ床ふ
れが擬二郎ハ喚近づて和睦の首尾と告知。時ハを疾我宿所へ来て押繪ふ傳
示。と。客人達を御食饌の用意といふ。ねぬれと推立れ。時ハを忘も果ざ。そ
隨睡と旋り。白猪と投て走りけ。浩處ふ八重作の成勝考不先も。單

慌しくからめ。先通能ふ會釋して兄樅一郎ふ報る。松煙と歎ひ旅客へ強
情ふをて歩行より來れど少女とが座すやく。大江主が誘ひて彼の便轎ふうち乗て
見今其首まで惧せられ。和順の對面ふ。茲の中途のゆゑ。酒うるあるをうべと。
も亦大江主相計ひて旅館の飯店也。酒肴を沽食りそ。殘る空轎ふうち載て
そとあら齋へゆひあらゆども這里の腰掛茶屋也。登児の外ふ坐席す。その故ふ少
女とがを儘ふを猶假便轎ふ。在らすもよがる。あの義どりと大江主ふ吩咐らまび
き。と告ると樅二郎うちゆて。开き亦意外の造化へ送る隈見刀祢们的指揮城
孰う推辭。奈我四郎も八重作と眞ふ。彼人をと歩迎へよ。とひくも。衣領樅
合せ身緒ひ。やく松煙齋もと候程ふ。通能も共侶ふ。店前ふ立て存り。程
もあらま成勝へ。彼少女子の便轎と先ふ立て。松煙齋を俱て來ぬ。後方み徒
を八重作奈我四意氣揚々たず。开き中ふ松煙齋の打扮へ都て昨日の寢妻れゑ

似ぞ縹緲織る仁田山袖の夾衣。尚已の時をくりよと被て烏羅の外套綺羅やふ。
彼朝櫻と称り短刀を腰ふあらる人呂骨相鄙う。實是文人也。昔は某甲殿
仕ふ。刀筆の吏少やあらうと見ゆる面部の巻瘻。一夜の間皆愈て。ちる迹継ふ
送り。茶店の媼え是と見て舌と吐に胆と喉して。奇々奇々と稱賛を當下
従二郎と通能へ左右ふ別と相迎へ。引て茶店ふ請入をふ。少女の便轎ふ乗たる
儘也。猶まご坐を。壯夫もの圍坐する。あの陥筵ふ少女子と交ふもあらざれ。
盛勝の美とあらぬませ。形の如くふ相計たり。然れどあの茶店。松の柱樹と柱ゆて。
竹と横えて柳ふあらう。葭簀天井の外ふ物もう。口が奥まりたる所あ。壤と云々をう
裝衣上て。簷廊の像ふあらう。故る間道の華席と綺ふ。放布ひる。大江
主僕ひの長席ふ。松煙従二郎もと請登る程ふ。八重作と奈我四郎。茶店の
婦ふ。まほて酒と湯め酒菜と。まほ。不益だふもあらと。されば茶碗と茶托ふうち

載て。りく坐るもいとぞ。當下成勝通能。俱ふ壽の詞と徧てひゆ。兩賢比。我們
不肖ふを。事聽至。と不者有。和睦の教びと盡ま及び。りふせん已。もの亦旅
客され。席と用ふ所す。ある故ふ古語ふ云。一樹のせ陰ふ相坐し。一河の流れを汲
せり。欲をり。海容あれか。とらひ。西箇の茶碗と分ちて。左右ふ楷て薦れ。縱
二郎と松煙齋。俱ふ茶碗と受戴にて。謝して且櫛二郎がへら。在下性愚毫
人を知る。維疎く。短慮淺智の癖あれ。廉士孝女と虐ほる。其罪萬死ふ當覈
る。と幸ひふと。大江峯張両君子の幫助ふよそ。主の咎を解き。教び是ふ優を
者ふ。願ふ今日より刎頸の交と許され。憂患と分ち樂と共ふ。身と終焉
まで違ふてゐるべ。倘あの誓ふ背ひ。身は天雷小轂。權れて來世の永劫襟落
淪。急々如律令。と折言畢れば。松煙齋も俱ふ折言ひて。今や怨敵骨肉ふ等と。
魯衛の好を結れる教びと演る時。峯張通能あらて酒と程あ。土瓶と把

そ。左右一齊酌易を和睦の式禮更終れば少女の便轎の戸を開ひて出まく
まうふ草履をれば。左隨ふをて樅二郎もふ向ひて額と衝不を做す。その举动の
大人備たる。人食ヤヤと感稱を。开^ハ中^フ松煙齋。樅二郎もうち向ひて。即ち已
らかやと。あ。うなづき。うなづき。うなづき。うなづき。うなづき。うなづき。うなづき。
父女^ハ為^ム美衣一領贈りゆべ。それを當りがとうふ。况^ハ轎子をひて迎へ
な。抑何^ハの結構を芳恩謝する詞を。最取辱く。とひと樅二郎嘗て有^ム否^シ
ト。豪農史^ハ五人^モ。乃^ハ李^シ奪畠^レ玉^ヒ。と云。當時人の噂^ハ空の我知る^リ。否
あねども心^ハ快^シ。所^シ。切て然^ニの衣^ヲ。償^ハ矣^ク。と思^ハす。守^リ
志^ハとぞ。とひと^シ松煙齋の感謝不堪^シ。成勝と通能も。王客の廉直任
侠^ハと稱^ハ。云々と慰^ハれ。八車作と奈我四郎^ハ亦改^ハ。松煙齋^ハ名告^ハ焉
和睦の祝壽^ト。の然^ニ餘^アある。茶碗拾^ハ。轎夫^ハちよ^モ。残^ハる樽^ハ盡^ハ
ませ。媼^ハ漏^ハぬ。茶碗酒^ハ馳走^ハ。夕陽刺^ハ。葭^ハ晝^ハ。

て皆酔^ハ。醉^ハふけり。當時樅二郎^ハ大江主僕^ハ謝^ハてゆす。両君子^ハ脚
庇^{カシ}。今又一箇の良友^ハゆゑ。既^ハ日影^ハ斜^カ。下晡^ハうなづ^カ。誘^ハ入^ス。松煙
主^ハ共^ニ宿^ス。所^ハ詣^ハ。夕餉^ハ薦^ハ。昨夜^ハ不^ス睡^ス。疲勞^シ。と^シ嬾^カ。
さらむ。と^シと^シ。王僕^ハ少^シあき。と^シ義^ハ數^キ未^シ足^ラねども。茲^ハ長譚の園^ハあらず。
皆立^ハ。と^シ。松煙齋も辭^ハ。左^モ右^モ諸君子^ハ隨^ハ。左^モ右^モ諸君子^ハ隨^ハ。
意^ハ従^ハ。ましん饒^ハ。と^シと^シ起^ハ。八車作^ハ轎夫^ハ。あくら^ハさせ^ス。松煙齋
とも^ハ便^シ。轎^ハ乗^ハ。欲^シ。ふ^シ。松煙齋^ハ推^ハ辭^ハ。乗^ハ。口^ハ得^シ。少女^ハ乗^ハ。便^シ。
轎^ハ先^ハ立^ハ。空^シ。物^ハ盒^ス。と^シ空^シ。樽^ハ推^ハ。辭^ハ。乗^ハ。口^ハ得^シ。少女^ハ乗^ハ。便^シ。
通能^ハ茶^シ店^の媼^ハ。勞^ハ。茶價^ハ。食^ハ。欲^シ。媼^ハ決^シ。受^ハ。内^ハ。茶^シ。
その義^ハ櫛^ハ韓^シ錦^シ主^ハ。金^ハ分^ハ賜^ハ。たゞ^シ過^ハ分^シ。茶價^ハ。得^シ。亦^シ。
何^ハ歎^シ。受^ハ。ましん^ハ。と^シ推^ハ。辭^ハ。亦^シ。樅二郎^も禁^ハ。此^モ費^ハ。せま。と^シ候^ス。

け。當下成勝通能へ西の方と瞻仰て尚暮る丈程あるを。己身の田文の
地元へ詣て迹よりやんとく事情を云々と樅二郎が告へ。然らば八重作され
奈我四郎まれ。案内の為ふ従へ。彼等両箇小吩咐ると成勝と通能遠く
もあらぬ程えふ御道守兎へ要す。蚤も路を横、且そ地蔵堂と投げて
泊けり。余程ふ韓錦樅二郎の第八重作共侶ふ松煙齋父女が相俱て白猪の
宿所へかこまゆる。其路三四町ふそり一時奈我四郎の先へ走り。押繪が右を告
るやうべ。然ど六日の日留守を。見越松時八を厨檜た支果へ。主の還る
と鶴脛奈我四郎と俱ふ折戸口をも出迎へ。其敬礼大なるを。當
下樅二郎は轎夫をふあらぬさせて。少女の以便轎と开き儘ふ簾廊が昇とせざ
されば押繪ハ蚤く坐て來る。其戸をやどら推開にて。よと食ひて坐席ふ請待は。是
日少女の打扮は思ふやも似ぞ鄙びぬ。絳梅織き。陸尺袖の夾衣ふ緋の綿の汗衫

裙長く端磨な金襷の帶玉梓ふ緋做せる。年紀二八可也。桃花の脣臙蠶
の眉有斯る。縣ひるみも足毫を春の桃花の京都。秋の月の浪速も儕夷ら
おと見るゆめうち。觸る所をまご浴せ。然とも長る雲鬟の故の儘を梳らむ。
只草を束ね。磨に送せる鏡の塵。玉ふ瓶あり心地もと思忍者をも。うけ
當下八重作奈我四郎の轎夫をもと背門の方ふ口入れて茶を飲せ。足を取らむ
遜情果て賓主の席定り。かく。押繪ひてひ坐を。松煙父女ふ茶を薦む。
果子を薦めて和睦の致じ。言叶寧する名對面ふ松煙齋の席と通て思ひが
けぬ。今宵より王せらむ教じ。陳れ少女の親の後方より。あそく膝と枕を。樅二郎
及押繪も衣裳。便轎え惠れる。櫻食應の波。過世怪しき事の幸を説き
も言語寡も。初々くの見え。と押繪を。慰安を。兒樅郎に向ひく。

玉石童子訓 卷二十一

文海堂三編

す。昨今ハ日ハ長ニ漸リ五更ハ暮暮ねども。客人達ハ物アリ。時候アリ。そをも見
や。タ食アサシトヤマアラモ。といハ榊二郎領アシタツミ。それよか。見半ハミ。とひ。松煙齋推禁
や。否已アリ。方僕田文の茶店カミガタキ。さて。沙量アシタツミ。あれど酒菜アル。飽アリ。度たゞ人
侍り。タ食アサシ。欲か。况大江峯張アシタツミ。まづ。來アリ。來アリ。と。俟アリ。と。已
ら。物賜アシタツミ。無礼アリ。非アリ。差アリ。捨アリ。と。辭アリ。と。榊二郎強難アリ。あら。貴
意アリ。任アリ。令愛アリ。如意アリ。先果子アリ。ともたゞ。又。押繪那茶アシタツミ。冷アリ。汲易アリ。
き。手アリ。押繪アシタツミ。心アリ。茶碗拾アシタツミ。漆盆アシタツミ。載アシタツミ。立アシタツミ。是
よりの後。榊二郎アシタツミ。松煙齋アシタツミ。對坐アシタツミ。四表アシタツミ。八表アシタツミ。の言の次。大江峯張アシタツミ。徳と稱
え。已アリ。短慮淺計アシタツミ。後悔アシタツミ。外アシタツミ。然。松煙齋慰アシタツミ。其義アシタツミ。和殿アシタツミ。是
咱アシタツミ。一時の怒ふ。無アリ。不測の禍アシタツミ。釀アシタツミ。年アシタツミ。似アシタツミ。心アシタツミ。世アシタツミ。塞
翁アシタツミ。馬アシタツミ。冤家アシタツミ。反アシタツミ。知已アシタツミ。富アシタツミ。賤アシタツミ。交情異アシタツミ。損益アシタツミ。兩友アシタツミ。我アシタツミ。在アシタツミ。

その志合アリ。されば肝胆アリ。胡越アリ。の如く。其志同けれ。千里も合璧アリ。似アリ。べ。敢
果アリ。負アリ。者アリ。心アリ。あそ。とい。れて。榊二郎。嗟嘆アリ。堪アリ。貴老アリ。正アリ。不學アリ。回アリ。ヨヌ文多
識アリ。心操アリ。方正アリ。己アリ。ちが。入止及アリ。不アリ。就アリ。詰アリ。貴老アリ。妻アリ。是
筑石アリ。人アリ。這年來アリ。跡アリ。と。諸國アリ。遊歴アリ。あ。來アリ。不アリ。故アリ。因アリ。思アリ。其稱
號路アリ。鳥森松煙齋アリ。と。狹喫アリ。做アリ。さへ。故アリ。と。昔アリ。由緒アリ。ある名家の末族アリ。
ろ。あ。と。我アリ。上アリ。詳アリ。ふ告アリ。せ。も。あ。只アリ。何アリ。を。り。そ。疑アリ。と。解アリ。既アリ。不斯莫逆アリ。文アリ
結アリ。と。上アリ。今アリ。ゆ。り。匿アリ。ま。ぐ。も。あ。ら。故アリ。あ。て。流浪アリ。我身アリ。長。古。歲。五。十。比。二。親。不
恵アリ。と。同胞。俱。ふ。あ。地。不。來。つ。そ。後。父。母。世。と。夫。り。我。身。の。便。羊。石。死。隨。武
執。と。と。口。と。餉。ひ。一。より。地方。の。人。綽。號。と。韓錦。榊。一。郎。と。喫。做。一。た。つ。そ。る
只角。瓶。の。上。あ。の。本。姓。ハ。間。貫。氏。也。佐。用。二。郎。茂。洋。是。ヘ。弟。兄。怎。う。因果。へ



せん弟も亦角触と好ゆ。奈良櫻と喚れ。八重作と名告す。實に佐之。次
世是へ又我弟のをみよ。見らき如く。女弟押繪も。身材高くて。此の脇力有。
皆只勇と好む。心術怜悧からまれば。牆ふ闇ぐの僻夷象。外其侮りを防ふ
足矣。這回我身の愆も。短慮淺智の做を所恥。くそい氣と即言が耳。聲
潜して。告る。驚く松煙齋。憶を兩ひて。拍鳴。奇。奇哉。奇也。原来和
殿弟兄ハ我為ふ故朋輩。間賃佐用六故世吏の児達也。ありけり。知らぬ
ゆと。昨日まで。路上の人と見一のをみた。一旦怨と結び。送ふ千慮の一失と
尔とも孰欲諾。京。後悔。名詮。料。今和睦。名告會
おの宿因。書き。書する所。是切。もの幸。と。少女。胸。浅。奇
遇を感嘆。う。あの段文。尚。又下回。解分る。聽。新局玉石童子訓卷之二十二終
村田

新局玉石童子訓卷之二十二終

